

2024年12月のお知らせ 12月8日発行

1. 今後の典礼

日	主日	聖書朗読	司式	送迎
2024.12.15(日)	待降節第3主日	ルカ 3・10-18	タム師	鈴木
2024.12.22(日)	待降節第4主日	ルカ 1・39-45	テハン師	松澤(マリ)
2024.12.24(火)	主の降誕(17:00)	ルカ 1・67-79	テハン師	岩城
2024.12.25(水)	主の降誕(11:00)	ルカ 2・1-14	テハン師	野口
2024.12.29(日)	聖家族	ルカ 2・41-52	李師	-

2. 今後の集会・研修会・講演会等

- ・黙想会 12/8(日) 9:30～ 山中師(イエズス会) テーマ:「わたしたちに求められているシノダリティとは」
- ・「Viatger 中世古楽コンサート 冬の祝祭」国分寺 12/22(日) & 大磯 2025/1/13 中村会子さん、他。
- ・2024 冬の高校生一日企画「かまさんぽ」 12/28(土)11:00～17:00(昼食付)雪ノ下教会、参加費 500 円
- ・教皇フランシスコ訪問 5 周年記念展示会 12/7(土)～11 日(水)(10:00～19:00) 上智大学 11 号館1FSSIC
- レンゾ・デルカ師(イエズス会)日本 26 聖人記念館副館長講演 12/7(土)13:00～

3. 今後の予定

- ・12/15(日)月例会、第6地区運営会小田原教会 14:00～
- ・12/21(土)子供のクリスマス会 13:30～15:30
- ・キャロリング 12/22(日)14 時～リハーサル、15 時～本番
- ・12/24(火)降誕祭夜半ミサ 聖歌隊集合 16:30

4. 「聖年と子供たちの聖人サンタクロースとクリスマス」

「聖年」が始まります。今回の聖年のテーマは「希望の巡礼者」です。公布された大勅書「希望は欺かない」の中で教皇様が述べておられます。12/24 にバチカンのサンピエトロ大聖堂の聖なる扉が開かれ、カトリック教会が 25 年ごとに行う聖年が始まります。2026.1.6 の「主の公現」の日に、同じバチカンのサンピエトロ大聖堂の聖なる扉が閉じられ閉幕します。これに合わせてすべての司教座聖堂で、12/29 主日に開幕ミサ、2025.12.28 の主日に閉幕ミサを行うことになっています。聖年の伝統は 1300 年に始まり(旧約聖書レビ記 25・10)、1 つの伝統は巡礼と言われています。このお恵みの年に、私もイエス様に繋がって一緒に歩んで行けるように目標をもって歩みたいと思います。もうすぐクリスマスです。クリスマスといえはすぐに思い出す人は、「白いひげをはやし、赤い服、赤い帽子、赤い靴を履いたサンタクロースのおじいさん」です。約 1800 年前に小アジアのミラ(後に、ローマの属州)という町に、ニコラスという少年が住んでいました。家はお金持ちでとても信心深く人に親切で心も清らかでした。貧しくて困っている人に寄り添い大変尊敬されていました。近くに貧しい靴屋さんが住んでいて、ニコラスは気の毒に思い助けてあげようと決心し、真っ暗な夜にそっと親子の家の窓の隙間から用意したお金の包みを投げ込むと見つからないように逃げて帰りました。何度も何度もお金をあげるためにそっと家に近付きますがとうとう見つかってしまいました。このことが町中の評判になり、小アジアのエーゲ海に面したミラ(現デムレ)の町の司教様に選ばれて町の人を何度も飢饉から救いました。司教様は 73 歳で天国に召されましたが、その後お墓のそばではたくさんの奇蹟が起こり、亡くなってからも多くの町の人たちに幸せを届けました。聖ニコラスの祝日は「子供の日」になり、聖人の祝日(12/6)には子供たちにそっとプレゼントをする習慣ができあがったそうです。個人的なクリスマスの記憶は、部屋の一隅の質素な馬小屋、母、妹、私の 3 人で、ごミサに行くみぞれが降る寒い夜道、教会の鐘の音、ローソクの明かり、オルガンの調べと聖歌隊の歌、神父様から侍者に特別にいただくイチゴのショートケーキのご褒美がとてもおいしかったことです。当時を振り返ると素朴な家庭行事として、毎年繰り返された我が家のクリスマスでした。この聖夜の思い出は私の幼な心に刻まれ、クリスマスが近くなると懐かしく思い出されます。(oi)